

## 丹波縄文の森塾 第2日目活動報告 (令和4年6月18日)



6月18日(土) 梅雨の合間の曇り空。  
杉本サポーターの指導で、安納紅と安納黄金という品種のサツマイモの苗の植付けを体験。芋の数が多いが小芋になる「斜め植え」と、数は少ないが大きな芋になる「垂直植え」を自分の判断で行った。秋には、おいしいお芋が出来るか楽しみ。



次に、なにわの伝統野菜で「芽が出る」ことから縁起の良い食べ物としておせち料理に使われる「吹田クワイ」の苗を湿地に放り投げるようにして植えた。水を切らさないようするのが栽培のコツ。



昼食は、地元で採れた玉ねぎが一杯入ったハッシュドビーフとフルーツポンチ。お代わりをする塾生が続出。



午後からは、角谷森づくり活動アドバイザーの案内で、丹波の森公苑の里山に棲む生き物を観察した。この時期には、ヒツジグサ、ノアザミ、ヤマボウシ、クリ、ハンゲショウなどが花をつけていた。



国蝶オオムラサキを育てているゲージに入り、エノキの葉を食べている幼虫や葉の色や葉脈など周囲の環境にとけこむサナギ、さらには羽化してゲージ内を飛び交う蝶を手に乗せて、じっくり観察した。

